

# W~M~E

WASEDA

MECHANICAL

ENGINEERING

# 第43号

## OCT. 2015

# Newsletter

2015年(平成27年)10月1日発行

## ABU ロボコン 2015 国内優勝

ROBOSTEP 前幹事長 総合機械工学科 3年 三宅章太

### 初めに

ROBOSTEPはABU(※)ロボコンの優勝を目的として2013年11月に設立されたサークルで、この目標に向けて活動を続けてまいりました。そしてご存知の方も多いと思いますが、このたびNHK学生ロボコン2015で優勝、ABUロボコンでベスト8(全部で19チーム出場)に入ることができ、私たちもこのように結果がでて非常にうれしく思います。機友会の皆様には設立当時から支えていただきありがとうございます。この場を借りてお礼を申し上げますと共に今後ともよろしくお願いたします。(※ABU:アジア

太平洋放送連合)

### NHK 学生ロボコンと ABU ロボコン

NHK学生ロボコンは世界大会であるABUロボコンの日本選考会となっております。ルールは毎年変更され世界大会のホスト国によって決定されます。今年はインドネシアによって決定され、その内容はだまかには、パドミントンダブルスをロボットで行うというものです。人間の行うパドミントンと異なる点はサーブを落とす場所が約1m×2mの範囲に限定されているという点だけです。ロボットは2台以内で自動で

### CONTENTS

ABUロボコン2015国内優勝	1~2
「基幹理工学部・研究科の現状と将来展望」	3
創造理エリテラシーII 報告	4
単位取り直し講座「材料力学」の顛末	5
イブニングサロンの報告	5
奥村 敦史 名誉教授のご逝去を悼んで	6
オリエンテーションの報告	7
機友会各賞発表	8
「技術経験ネットワーク」の推進について	9
新しいイブニングサロンのスタート	9
新任教員のご挨拶	10
機友会総会報告	10~11
オリーブ・佐々木洋子奨学資金設立後の経過についてのご報告	12
機友会ゴルフコンペ開催報告	13
うれしいニュースをバネとして	13
ROBOSTEP 世界大会(インドネシア)遠征費寄付の御礼	14
会員計報	14
伊藤忠夫氏の急逝を悼む	15
サポート費	15
事務局からのお知らせ	16



NHK 学生ロボコンで優勝(中央は顧問の首野創造理工学部長)

も手動でもよく、ラケットは何本装着してもかまわないとなっていました。

このようなルールの中、ROBOSTEPは初めてのNHK学生ロボコンということもあり、難しい自動ロボットには挑まず手動ロボットの操作性を追及することで勝利しようという方針で製作を開始しました。紆余曲折ありましたが、最終的には前衛機でサーブとネット際の返球やスマッシュを行い、後衛機でレシーブを行うという作戦になり、機体は4月の最初に完成しその後6月7日まで練習を積み重ね大会に臨みました。1回戦で松江工業高等専門学校を、2回戦と準決勝で強豪の豊橋技術科学大学と東京大学、決勝では新潟大学を破り優勝という結果を掴むことができました。

ABUロボコンでは前日に日本大会ではなかった様々なトラブルが発生し、前日のテストランで行われたエキシビジョンでは実力を発揮することができずシードを落としてしまいました。そのような中どうにか立て直し、大会当日はスリランカとシードとなっていたマレーシアを破り決勝トーナメントに進出、その後この大会で優勝したベトナムと対戦し敗退となりベスト8という結果になりました。また特別協賛の株式会社ナガセから特別賞をいただきました。

今年はルールが難しいといわれては

いましたが、手動ロボットだけで戦えるという点で開発はやり方しだいで少なくでき、ある程度の物さえ作れば練習しだいで勝てるルールでもありました。今回の結果は相手のミスやトラブルなども重なり実力だけで得たものだとは思いません。ですが、私たちの代はサークル立ち上げから始め、ロボコン初出場ということのことを考えると今年出場したどの学校のチームよりも苦勞してこの大会に臨んでいたと思います。その中でこのような結果が得られたことに非常にうれしく思います。

### 今後の展望

来年のロボコンのコンセプト課題が発表され今年研究していなかった自動ロボットで行う方が有利というルールとなりました。この原稿を執筆したのは大会直後ですがすでに来年に向けて製作活動が始まっており、私たちの代の勢いは下の代にも継承されていると思います。ROBOSTEPとしては来年に向けて新たな領域に挑戦しなければなりません。またNHK学生ロボコン2016では注目される中、戦うこととなりますが、連覇を目指して機体を製作していく所存です。

### 最後に

世界大会ではベトナム、香港などは

早稲田と同じ手動ロボット方式でしたが、早稲田よりもラケット形状の工夫など戦略的に考えられている部分が勝っていました。またマレーシアや中国は自動化されたロボットで技術的には非常に高いものを制作して出場してきました。これはシャトルを自動追尾しスタート後は自動的な動作となります。特に中国の自動ロボットは凄まじく、トラブルで予選敗退となってはしまいましたが、その自動化技術には圧倒されたものがありました。世界を舞台に今後優勝するためにはこのような自動化技術は必須のものとなると考えています。自動化技術を高めながらも、来年以降も試合で結果を残せるようになっていきたいと思います。最後に日本大会、世界大会を通してROBOSTEPを支援していただいたすべての方々に感謝を申し上げますとともに、今後ともよろしくお願いたします。



対マレーシア



対ベトナム



早稲田ロボコンマシン

(出典：NHK2015.9.22放送の画面より引用)



ABUロボコン世界大会

# 「基幹理工学部・研究科の現状と将来展望」

## Vision 150 — 創立 150 周年に向けて

基幹理工学部長・研究科長 機械科学・航空学科 教授 太田 有



2007年に旧理工学部が基幹、創造、先進の3理工学部に再編されてから既に8年以上が経過しました。機械科学・航空学科の所属する基幹理工学部は、独自の入試・教育制度を導入して、文字通り、基幹産業分野で将来活躍できる人材の育成を最大の目標として教育・研究を実施して参りました。特に基幹理工学部の特色としては、①学系別入試と進級振り分け制度の導入、②国際化の推進、が挙げられます。ここでは上記2点を中心に基幹理工学部の現状を機友会の諸先輩方にご報告申し上げると共に、現在検討している将来展望について、簡単にご紹介させていただきます。

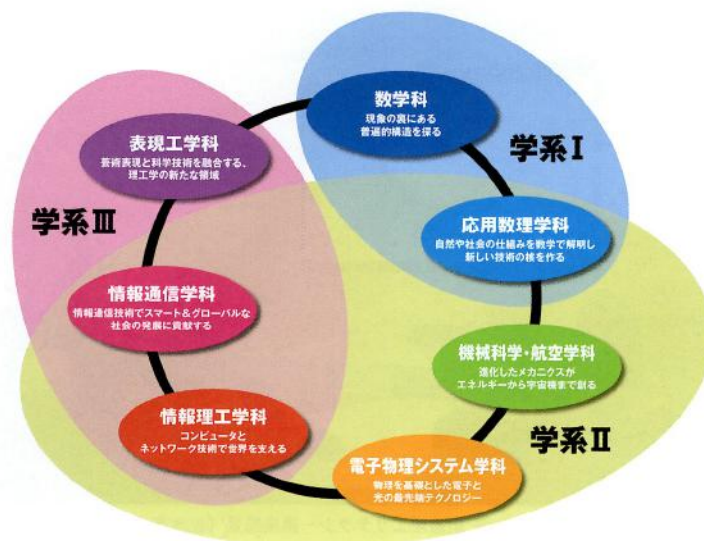
**1. 学系別入試と進級振り分け制度の導入：**基幹理工学部ではその発足当時、数学を理工学のベースと捉え、十分に深い基礎知識と将来如何なる分野に進学してもそこで柔軟に対応できる高い展開力を持った学生を育成したいという共通の考えを持った6学科（数学科、応用数理学科、情報理工学科、機械科学・航空学科、電子光システム学科、表現工学科）によって構成されました。当初は新入生を一括募集し、1年間の学習の後に進級先学科を自らが選択する進級振り分け制度を導入し、在学生のみならず受験生からも好評価を得ておりました。しかし、理学、工学のみならず芸術やメディア分野までを扱う特色ある6学科から全ての学生諸君が希望通りに進級先を決定することは難しく、毎年3%程度の学生諸君が希望しなかった学科に進級することになる結果を生んでお

りました。そこで、2014年度から新たに参入した情報通信学科を加えた7学科を3つの学系（数学系、工学系、メディア系）に分類し、その学系毎に学生募集を行う学系別入試へと大幅変更を致しました（図1）。2014年度の第1回新制度入試では、基幹理工学部始めて以来最高の受験者数を記録し、2015年度入試でも高い水準を維持しております。2015年春に行われた第1回の学科進級振り分けでは、進級可能学科数が多い学系Ⅱで若干名の学生が、残念ながら希望していない学科に進級する結果となりましたが、ほぼ全ての学生の希望を叶えることができました。

**2. 国際化の推進：**国際化（グローバル化）は我が国のほぼ全ての大学にとって将来目標であると共に大きな障壁であり懸念事項にもなっているようです。従来から留学生数が多い早稲田大学では、複数の学部で国際化をいち早く開始し、4年間の授業が全て英語で行われる国際コースが設置されました。基幹理工学部においても2010年から数学応数、情報の2コースが設置され、学生数は年々増加する傾向にあります。2014年からは機械科学・航空学科を除く6学科が国際コースに参入し、学生定員も60名に増員して、更なる国際化の発展を目指すと共に、日本人学生に対しても広く門戸を開放することにしました。この背景には、2014年文部科学省に

よってSGU (Super Global University) Top型13大学に選出されたこと、および2032年の大学創立150周年に向けた基本戦略「Vision150」に掲げられた13項目の中で、実に5項目が国際化に関する戦略であることなどが大きく影響しています。基幹理工学部では更なる国際化の推進を指向して、機械科学・航空学科を含めた全学科が参加した新しい国際教育の形を模索すると共に、4月入学と9月入学制度の並立、更には日本語コースと英語コースの単位互換を含めた教育のハイブリッド化を加速し、世界を舞台に活躍できる日本人学生を育てたいという大きな希望を持っています。

最後になりましたが、機友会事務局で大変お世話になっております、オリーブこと佐々木洋子氏から多額のご寄附を頂戴し、機械科学・航空学科および総合機械工学科の学生を対象とした奨学金制度「オリーブ・佐々木洋子奨学金」が設立されました。また、このニュースを聞かれた機友会会員の先輩方より同様のご寄附の申し込みを頂いたと伺いました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。



基幹理工学部所属学科と学系別入試

## 創造理工 リテラシーⅡ 報告

創造理工学部では、1年生の必修科目として、技術倫理・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力など、理系学生として必要な「読み書きそろばん」を習得出来る様、学科横断の「創造理工リテラシー」という講座を設けています。この科目の延長として、2015年度より2年生以上を対象にした、実社会に於ける問題解決能力の育成を目的として、「創造理工リテラシーⅡ」が設置されました。この科目の指導は実社会で活躍するOBが担当する企画で、機友会にも講座担当とゲストスピーカー選任の依頼があり、2015年4月27日と5月11日に機友会担当の講座が開かれました。

講師は、東芝副社長を務められた、並木正夫氏（昭和51年土屋研修士）にお願いし、両日は5限と6限（16時30分～19時45分）2コマをフルに活用しOBと学生の交流がはかられました。

講座では、まず並木講師から人類の歴史を変えた発明、人類が抱える課題、期待される未来の技術、などについて話題提供がなされ、夫々のテーマについてグループ討議を行い、まとめを発表する形式がとられ、初日の討議

で学生グループが取り上げた2回目の講座で検討するテーマは「食糧問題」でした。連休明けの2回目の講座では、人口問題をはじめ、世界の農業、水資源、更には過体重（BMI 25以上）人口の分布など、興味深い情報提供の講義に続いて、如何にして学生たちが学びつつある技術を活用して問題を解決するか、終了時間を超えて遅くまで熱心な議論が行われました。

日頃あまり考えていないが、これからの世代がいやでも直面しているさまざまな課題について、自分たちが勉強している技術をどう生かせるか、種々の学科の学生が共に知恵を出し合い議論をする貴重な講座となりました。

並木講師のお話は、所々に東芝でのご経験や、世界各地の大会に出ておられる趣味のマラソン、芸術やスポーツ、最先端技術の話、更にはドラえものの秘密の道具まで、多くのご経験と幅広い見識に裏付けされた素晴らしいものでした。講座の最後には、工学の分野にも感性と感動が必要であることを説かれ、司馬遼太郎の「二十一世紀に生きる君たちへ」から引用され、‘いたわり’や‘やさしさ’について身に着ける訓練をすべし、との言葉で締めくく



られました。

学生のグループ討議には、東芝から、赤田喜央（昭和52年山根研修士）、高久和重（昭和50年斎藤研）、谷山雅俊（昭和52年永田研修士）、のOB各氏が参加され指導に当たられました。

今回の科目の受講生は比較的少人数でありましたが、このような素晴らしい先輩に接して指導を受けられる早稲田ならではの貴重な講座であり、今後より多くの学生が同様な機会を得られる様この科目が更に発展する事を期待しています。（文責 矢吹捷一）



創造理工リテラシー講座風景（並木正夫氏）



ゲストスピーカーの先生方

# 単位取り直し講座「材料力学」の顛末

■現役バリバリ OB 向けの「単位取り直し講座」は、まず昨年11月22日(土)「機械材料学」に引き続き本年6月6日(土)に材料力学が開始しました。参加者は20名、2名の講師(川口清先生、浅川)による13時から18時の講義に引き続き、18時からの懇親会で教員と現役バリバリの卒業生との質問を兼ねた交流会が始まりました。参加者の1人である米村正道氏(46年卒、エンジニアリング会社)の感想文を以下にご紹介いたします。

今回は「電気・制御」などを企画中であり、奮ってご応募下さい。なお、過去の講義資料をご要望の方は機友会サポート費2千円

を添えて機友会までお申し込み下さい。(浅川基男)

## ■感想文

私の卒論研究室はあの名著「材料力学」を書かれた奥村先生ですがまるで材料力学を理解してなかった私が、会社に入ってディーゼルエンジンを設計することになり、なんと材料力学の公式にはずいぶんとお世話になりました。でもその意味は?実務中とはもかく公式応用で結果が出ればいいんだ、と突っ走ってきた40年間、少し振り返ってもいいかな、そんな気持ちで申込メールをお送りしました。

久しぶりの5時間講義、途中で眠くなっては失礼だし、心配しておりましたが、つばを押さえたご説明に「眼からうろこ」のお話がいくつもあり、まず「材料力学はいい加減な学問でね」ここにぐっと来ました。実社会に出て学問で解析できることがいかに少ないか、しかしその複雑な現象を整理して少しでも現実に応用できるように考えたのが学問かな、なんて勝手に考えていたので、先生自らがそんな風に考えておられる、すばらしい。その後もあつという間の5時間でした。ありがとうございました。(米村正道)



聴講の様子(川口清先生)



懇親会

## イブニングサロンの報告

### 13回機友会イブニングサロン 「カーボン繊維を超える材料は開発できるのか？」

講師：機械科学・航空学科教授 川田宏之先生

本会は、2015年3月20日(金)午後6時から55号館2階第4会議室と竹内ラウンジで開催され、24名の参加者がありました。

カーボン繊維は、年々消費量が伸びているが世界生産量の2/3は日本製であるとのこと。その用途は、スポーツ用品、航空機、一般機械用に分けられ、とくに航空機用と一般機械用が伸びていて、この一般機械用とは、自動車用が中心です。このように需要が伸びてい

るのは、加工が容易なプリプレグという加工方法が普及し、コストダウンが行われている事が大きいとのこととあります。

カーボン繊維にはPAN系(ポリアクリロニトリル繊維から製造する方法)とピッチ系(ピッチを原料に製造する方法)があり、PAN系は柔軟性がありピッチ系は弾性係数が高いという特徴があります。

川田先生は卒業以来一貫して、カーボン繊維強化プラスチック(CFRP)の研究をされているとのこと、時代の最先端を走っておられます。

この最強のカーボン繊維を超える繊維として、川田先生が研究されているのは、カーボンナノチューブを用いるCFRPだそうです。数個の蚕の繭から一本の糸を紡ぐように、CVD(化学蒸着)で生成するカーボンナノチューブか

ら、何本もの繊維を束ねたカーボンナノチューブの糸が紡がれていく様子が、動画で示されました。

このようなメカニズムはナノスケール(10<sup>-9</sup>メートル)の世界で組み立てられていて、我々の常識を超える世界です。量子力学の支配する領域ですから、常識を超えるような現象が起こっているようです。

川田先生はこの分野の研究で機械学会から論文賞を頂いたそうで、これは早稲田の機械工学科では太田英輔先生以来の快挙ということでした。

講演の後、会場を変えて竹内ラウンジで先生を囲み懇談会が催されました。6時から始まった懇談会は8時半頃まで続き、大変盛り上がりました。

(文責 事務局 荻須吉洋)



イブニングサロン風景

# 奥村 敦史 名誉教授のご逝去を悼んで

総合機械工学科教授 山川 宏

新年の慌ただしさが落ち着きました本年の1月31日に、早稲田大学名誉教授であります奥村敦史先生が老衰にて満97歳の生涯を終えられたとの悲報に接し、ただ驚くばかりで奥様ならびにご家族の皆様のご傷心のほど、いかばかりかと拝察をいたし、ご冥福をお祈りした次第でございます。ご葬儀等は2月初旬に親しいご家族の方等で執り行われました

奥村先生からご薫陶を受けた卒業生の一人として先生を偲びまして拙文を寄せさせていただきます。ご家族の方に伺いますと昨年の7月頃に肺炎で入院され、その後、ご子息の家で療養を続けられておられたようでした。それまでは90歳代になられましてもお元気で基本的には奥様とお二人で過ごされておられるご様子、感心しておりました。

奥村先生は昭和16年12月に早稲田大学理工学部機械工学科を卒業され、その後昭和20年9月まで三菱重工名古屋航空機製作所に勤務されました。昭和20年10月には専門部工科の運輸機械科の助教授となって大学に戻られました。その後理工学部の、講師、助教授を経て、昭和33年に教授になられ、退職まで40年近く大学の教育・研

究に尽力されました。機械力学、振動工学、材料力学、構造力学をカバーする広い専門分野を対象に教育・研究を展開されました。

教育面では初等力学、材料力学、振動学等関係の授業を持たれました。特に卒業生の皆様には材料力学の授業の印象が深かったと思われまします。同授業では講義は一切行わず、先生の著された教科書を数ステップに分け、個々のステップを自主的に勉強して、学習が成立したと思われたときに面接をして合格すれば次のステップに進むという極めてユニークな形の授業でした。ご家族のお話から先生の学んだ成城学園の自由な教育を大学においても実践されることを考えておられたと推測しております。最近、アクティブラーニング、グループ学習、対面教育などの従来の講義と異なる、学生自身の主体的な学習が求められる教育が話題になっていますが、約50年前に行われたこの授業は誠に先進的であったと考えています。

また研究面では多くの研究をなされましたが、その中で複雑な機械・構造系の構造力学、座屈問題、振動問題を極めてスマートに解析できる【伝達マトリクス法】開発は特筆されるもので、



ありし日の奥村先生

伝達マトリクス法の内外の先駆者でもあります。幹事を務められた日本機械学会の分科会において当時解析が困難であったさまざまな形状のシェル構造である原子炉格納容器の新しい解析法として伝達マトリクス法を応用した「SHELVEIA」と呼ばれる解析プログラムを開発して多くの成果を上げられたことも特筆されます。

奥村先生は音楽、特にフルートを愛好され、昼休み等には先生のお部屋から時々、フルートの音が聞こえてきました。学内でも高橋利衛先生、土屋喜一先生などと「鳴らそう会」に参加され、演奏を楽しんでおられました。写真は鳴らそう会の合宿で富士吉田の民宿に宿泊した際の練習風景で高橋先生のお顔も見られます。

5月31日には奥村研究室の卒業生を中心とした「偲ぶ会」が開催され、110名近くの卒業生に参加いただき、私ども卒業生の感謝の気持ちが先生へ少しでもお伝えすることができたのではないかと考えております。

最後になりましたが、奥村敦史先生のごこれまでのご指導とご厚情に改めて感謝を申し上げますとともに、私ども卒業生はさらに頑張りますので、どうか安らかに眠りください。先生のご冥福をお祈り申し上げます。



合宿での練習風景

## 2015年度 総合機械工学科 1年生オリエンテーション報告

総合機械工学科 助手 立松直倫、長濱峻介

総合機械工学科1年生のオリエンテーションを、本年も6月13日(土)、14日(日)の日程で軽井沢セミナーハウスにて実施しました。13日の朝、4台のバスで西早稲田キャンパスを出発して約3時間の車の旅を経て軽井沢セミナーハウスに到着しました。バスから降りた学生たちは普段のキャンパスとは違う、浅間山のふもとで大自然に包まれたセミナーハウスに目を輝かせながら到着の喜びを感じていました。

到着後、ビュッフェ形式の綺麗な食堂で、カレーライスに舌鼓を打った後、学生たちは豪華賞品をかけてサッカー、テニス、バスケットボール、ソフトボールといったスポーツ大会に参加して、楽しい時間を過ごしました。今年は6月の実施ということで、屋外でのスポーツ大会の実施は難しいのではないかと懸念されましたが、天気にも恵まれ、爽やかな汗を流すことができました。一部の種目では、優勝チームの学生と先生やTAの混成チームとの対抗戦等も行われ、普段の学生生活では見られないような交流も行われていました。

スポーツ大会の終了後、野外活動での汗を浴場で洗い流して、夕食をとり、その後は、毎年の恒例になっている夜話が行われました。学生たちを5部屋に分けて、各部屋に教授と助手がそれ

ぞれのやっていることや、学生に伝えたいメッセージを1人20分程度、話しました。様々な分野のスペシャリストの話に学生も時にはうんうん頷いたり、最新の研究の内容を知って驚きの表情を浮かべたり、自分が疑問を思ったことを聴いてみたりと、普段の授業とはまた違った形で活発に教師陣の話聞いていました。夜話終了後、学生を6人程度のグループに分けて、教授や助手やTAを交えてお菓子とジュースを摘まみながら懇親会を行いました。学生生活のこと、研究のこと、これか



スポーツ大会(バスケットボールの例)

らのこと、様々な事を話すうちに1時間という時間はあっというまに過ぎてしまいました。夜話の終了後、学生たちは部屋に戻り、各部屋で親睦を深めていました。

翌朝、朝食後、サッカーグラウンドの階段で集合写真を取り、旅の記念とした後で、軽井沢のアウトレットで2時間ほど、自由時間を過ごし、バスで東京に戻りました。

今年のオリエンテーションも天気に恵まれ、また、けが人等も特になく、新入生たちもスポーツや夜話と、肉体的にも精神的にも有意義な時間を過ごせたと思います。

大学生活が始まったばかりのこの時期に、教員や助手やTAと交流をすることが、これからの学生生活をより楽しく、また、大学生活での目標や、やりたいことを見つけるきっかけとなればよいなと感じました。最後に、本オリエンテーションの実施にあたりご協力・ご支援をいただきました先生方、助手、TAの方々と機友会の皆様に、この場を借りて厚くお礼申し上げます。



オリエンテーション集合写真

機友会奨励賞は、総合機械工学科1年生の授業「ビジュアルシンキング」で実施した「往復移動ロボットコンテスト」において、上位3件ならびにユニークなデザインと優れた技術のロボットを選び、賞状および賞金を授与しました。本コンテストでは、スタート地点から折り返し地点まで3[m]の距離があるコースにおいて、ロボットは折り返し地点まで自動的に進んで向きを変えてゴールへ戻ります。ロボットにつけた印がゴールラインに達するまでの所要時間と、その地点におけるスタート地点からの差の積を得点として、その小ささを競いました。ロボットのサイズや使用する電池などに関するルールに従い、配布した模型用モータを利用して学生が一人一機を製作しました。今年度は接戦だったので奨励賞も設定しました。

### 2015年6月30日 ビジュアルシンキング 往復移動ロボットコンテスト成績優秀者

順位	名前	成績
1位	高桑 聖仁	タイム:3.66秒、距離:1mm
2位	磯部 聡太郎	タイム:8.63秒、距離:1mm
3位	大和山 雄暉	タイム:9.30秒、距離:8mm

順位	名前
デザイン賞	今井 伸哉
技術賞	先崎 翔太郎
奨励賞(デザイン賞次点)	WANG Jo-chen
奨励賞(技術賞次点)	TUCKER Rawleigh



左から2位磯部君、1位高桑君



3位 大和山君



デザイン賞・技術賞・奨励賞(左からWANG、今井、先崎、TUCKERの諸君)

### 〈受賞者によるメカニズムの説明〉

#### 高桑聖仁(1位)

ギアボックス以外のパーツをCADで設計、レーザー加工機で切断し製作した。子機を射出し、親機が回収する方式をとった。

#### 今井伸哉(デザイン賞)

進行方向に対して前方は青LED、後方は赤LEDが点灯します。ねじシャフトとナットにより、モーターとLEDが切り替わります。

#### 先崎翔太郎(技術賞)

タイマーIC555による制御を基本に、リレーやFETを用いた自作のモータードライバ等を使って、モーターの動きを制御した。

### 機友会主催

## 第2回 機友会仕事見学会のお知らせ

前回の電気の史料館、JFEの見学に続き、第二回は、下記のように、JR東日本研究センターを見学します。先輩がどのような仕事をしているか見学することが目的です。現役の学生(学部、修士、博士)の方々の参加が可能です。参加希望者は機友会事務局までメール、電話等でお申し込みをお願いいたします。鉄道マニアの諸君にはまたとない企画です。

見学先: JR東日本研究センター他(住所 〒331-8513 さいたま市北区日進町2丁目497番地)

参加者: 総合機械工学科、機械科学・航空学科 学部、修士学生(定員45名)

日時: 平成27年11月5日(木)(理工展の前で、授業はありません)

見学14:00~17:00(理工学部集合は12時頃の予定です。) / 懇親会 17:00~

理工学部前からバスで移動いたします。帰りは各自自由とします。各研究室に詳細をお知らせしますが、早めに申込みをお願いします。

## 第3回 単位取り直し講座のご案内

2回実施し好評であった単位取り直し講座の第3回目を実施いたします。今回は、「制御工学の基礎」を予定しております。詳細は追ってご連絡いたします。ご期待ください。



# 「技術経験ネットワーク」の推進について

技術経験ネットワーク (GKN) 検討グループ

機友会ニューズレター2015年4月号に、「会員の技術経験を活用しよう！『知的ネットワーク』」と題し囲み記事が掲載されたことを、ご記憶の読者もおられると思う。この「知的ネットワーク」は、機友会100周年事業として、ホームページを利用して会員企業が必要とする人材を確保するために、協力可能な人材を募集するコンセプトとしてスタートした。

その後機友会としてもPRに努力してきたが、実際には意図通りに進んでいなかった。そこで理由について論議してきたが、経験やスキルを持つ人材と、必要とする企業の橋渡しを機友会が仲介するコンセプトに対し、即戦力を要望する企業ニーズとのギャップが大きいこと、企業経験を持つOBとし

ては、中小企業等の業務の真ただ中に再び身を投じることに躊躇する感覚があること、「知的ネットワーク」コンセプトの内容が分かりにくいこと等の問題があり思うように進んでいなかった。

他方、相当の経験を持ったOBが多く、その経験を有効に活用させていただくことは、技術の温故知新につながり、技術伝承にも貢献するという期待がある。このような視点から、その分野でご活躍をされてきた先輩の知見に学ぶ機会を増やし、現役の学生にも伝える場が設定できないかという論議を続けてきた。その結果、現実的に進める活動として、またOBの方も協力しやすい形として「技術経験ネットワーク」として再出発しようということと

なった。

具体的には、賛同するOBの経験をデータベース化し、イブニングサロンとして学生も交えて経験談を聞く会の開催、拡大理事会としてOB経験に学ぶ会の設定、特別講座の設定等、適宜OBの経験に学ぶ会を設定し、OBと学生をつなぐ場として現実的に進めようというコンセプトとした。

この再出発について理事会でも賛同していただき、早速9月11日(金)に機友会理事でタマチ工業太田邦博代表取締役会長より「自動車レースについて(仮題)」にお話いただくこととなった。今後このコンセプトが有効に機能するように更なる努力をしてみたいので、ご支援よろしくお願ひいたします。(文責 事務局 石太郎)

## イブニングサロンの報告

## 新しいイブニングサロンのスタート

機友会では新たに「技術経験ネットワーク(GKN)イブニングサロン」をスタートさせました。このコンセプトは、多くの技術経験をお持ちの会員の経験を、イブニングサロンにて披露して頂き、会員、理事および現役学生の参考にすることで、その試みが早速スタートしました。理事会の開かれる日に合わせて開催すれば、出席した理事の方もそのまま参加できます。

第1回のイブニングサロンは9月11日(金)理工学部62号館大会議室にて開催されました。講師は、機友会理事で、タマチ工業株式会社社長の太田邦博氏です。タマチ工業という会社の名前は、その前身は太田自動車から出発し、くろがね自動車工業、日産工機等に関係し日本の自動車の歴史に名を残す会社です。

太田自動車の創業者である太田氏の祖父は、日本で最初と言っていい時期に素晴らしいデザインと性能の乗用車を製造販売し、本田宗一郎氏とともに自動車レースにも出場されました。そのレースでは、本田宗一郎がレース中に事故を

起こして、九死に一生を得たエピソードがあり、自動車関係者の間では有名な話です。そのような伝統を引き継いで、太田氏がタマチ工業として発展させ今日に至っています。太田氏は、さらに技術力を向上させ、現在は精密で複雑

な形状のレーシングカーの部品製作会社として有名です。高度な加工のできる最新の工作機械をそろえており、大手自動車メーカーの部品群やレーシングカー部品の製作に大きく貢献されています。太田氏のお話は具体的で、機械技術者には血沸き、肉躍る内容でした。近年では、タマチ工業の強みである精密加工技術を生かして、医療用の機器、とくに血管に挿入するステントの製作分野に取り組んでおられ、実際に採用されているなど、ますます業務の拡大が図られていることが紹介されました。お話を聞いてびっくりすることばかりの会社でした。

太田氏には、機友会公認サークルの学生フォーミュラプロジェクトの、フォー



ミュラー部品や技術指導のご支援をいただいております。当日は関係する学生がたくさん講演を聞きに来てくれました。

最後に太田氏は、この様な高度な技術に挑戦している会社であり、注文も多く技術力も生かせるので、ぜひ若い学生さんに来ていただく事を期待していると、熱く語られました。新しい形式のイブサロでしたが、親近感があり技術的にも興味があるもので、参加者の皆様から好評でした。講演の後の懇親会も盛り上がりしました。第1回としては成功したのではないかと思います。初めてのGKNイブサロを盛り上げて頂いた、太田邦博氏に感謝申し上げます。

(文責 事務局 荻須吉洋)

# 総合機械工学科に移籍して

総合機械工学科 教授 大谷 淳

私は2014年4月に、それまでの本属であった国際情報通信研究科の廃止決定に伴い、本属を総合機械工学科に移しました。私は1977年3月に東京大学工学部精密機械工学科を卒業、1979年3月に同大学院精密機械工学専門課程修士課程を修了、同年4月に電電公社（現NTT）電気通信研究所に入所しました。1988年に東大より工学博士を取得しました。NTTに21年間勤務した後、2000年の国際情報通信研究科発足に伴い、早稲田大学に教授として着任しました。

大学の卒業論文研究では、人工臓器用マイクロポンプの記憶性金属による実現法に関する研究を行いました。修

士課程は自動制御の研究室に移り、電電公社からの委託研究のテーマである小径シールドマシンの制御法を研究しました。

電電公社入社後まず配属されたプリンタ研究室では、フルカラー・プリンタが当時はまだ世の中に無かったため、熱転写記録方式による実現法を研究しました。入社4年目頃、社内では通信端末における情報系技術の重要性が叫ばれるようになり、私も画像処理の研究に舵を切りました。以後、画像処理を中心としたいわゆる画像工学の研究を一貫して行ってきました。

冒頭に書いた本属変更の際は、正直どうするか迷いました。既に、総合機

械工学科の藤江研究室と共同で医用画像処理に関する研究を行っていたため、総合機械工学科が「面白そう」と感じており、移籍させていただくことになりました。「機械に始まり、機械に終わる」道を選んだことになります。是非本学科の先生方のご協力をいただき、医用工学やロボットを中心とする機械系と、画像工学を中心とする情報系とを統合して、今までに無い新たな技術やシステムを創出したいと思っています。



## 2014年度 機友会総会報告

2015年5月16日（土）、55号館S棟2階第3会議室にて、機友会総会が開催された。

議事に先立ち、逝去された浅尾克治理事のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げた。続いて浅川会長から出席への御礼と日頃のご支援・ご協力に対し感謝の辞が述べられた。

13時30分より、「基幹理工学部の現状について」とのテーマで、太田有基幹理工学部長の特別講演があり、講演の後、出席者と活発な質疑応答があった。

14時より幹事会を開催し、浅川会長から機友会の活性化について、現状報告と協力要請がなされた。また、2015年度役員は現役員が継続することが承認された。

休憩の後、通常総会を開催した。司会は荻須理事が行い、規定により会長を議長として議事に入った。第1号議案として荻須理事から2014年度事業

報告がなされた。続いて第2号議案として、会計担当の瀬在理事から決算報告がなされ、2014年度決算から会計方式を変更し、当該年度の納付会費はすべて当該年度収入として計上し、これまでの前納会費と繰越金は全て運営資金として管理するとの説明があった。その後、矢吹監事から会計監査報告がなされた。議長から賛否を求めたところ、異議なく全員一致で両議案は承認された。第3号議案2015年度事業計画（案）、第4号議案2015年度予算計画（案）について、それぞれ荻須理事、瀬在理事から説明があり、議長が賛否を求めたところ、異議なく全員一致で両議案は承認された。全議案審議終了後、2015～2016年度理事・役員が紹介された。

総会の後、休憩をはさんで、機友会奨励論文賞の授与式が行われ、基幹理工学部機械科学・航空学科3年の吉田秀和君が「人力飛行機における最適設

計手法」のテーマで優秀賞を、創造理工学部総合機械工学科4年の内河寛明君が「大動脈の形状モデルの製作」のテーマで努力賞をそれぞれ受賞し、会長から賞状と賞金が授与された。続いて、学生支援担当の石理事の司会で、機友会公認サークルの、エコランプロジェクト匠、宇宙航空研究会、ニッセスキークラブ、Waseda Formula Project、ROBOSTEPから順に2014年度の活動報告がなされた。

17時30分に総会を終了し、その後会場を生協カフェテリアに移し、懇親会を開催した。懇親会司会は浜野理事が担当した。サークルの学生諸君も参加して、OB会員と現役学生の交流も進み、大いに盛り上がった。予定の閉会時刻を30分ほど超過し、最後は西理事の力強いエールのもと全員で校歌を熱唱し閉会した。（事務局：大貫正雄 記）

## 2014年度 決算報告

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2014年度備考
前納分会費(14年度分)	2,682,625		
当期納入会費(14年度分)	2,400,000	5,462,294	14年度に納入された会費総額(OB・学生)
		3,635,294	OB会費
		1,827,000	学生会費
斎藤先生ご寄附		1,000,000	
サポート費	1,000,000	1,097,750	
ワセダフォーミュラプロジェクト指定		565,500	
鳥人間プロジェクト指定		10,000	
預金利息・雑収入	250,000	161,214	
		683	銀行利息
		531	郵貯利息
		66,000	総会懇親会会費
		21,000	イブサロ
		0	見学会
		38,000	単位取り直し講座
		35,000	広告代
計	6,332,625	8,296,758	
前納分会費(14年度以降降額)		5,685,812	*今期から会計方式を変更します
前期繰越金	269,856	271,052	
合計	6,602,481	14,253,622	

## 2013年度 決算報告(参考)

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2013年度備考
前納分会費(13年度分)	2,682,625	2,682,625	5,292,174(14年度以降)
当期納入会費(13年度分)	1,900,000	2,344,025	
		1,227,250	OB会費
		1,116,775	学生会費
サポート費	1,000,000	925,500	※別途サークル 25,000
預金利息・雑収入	250,000	97,196	
		671	銀行利息
		525	郵貯利息
		58,000	総会懇親会会費
		28,000	イブサロ
		0	見学会
		10,000	広告代
計	5,832,625	6,049,346	
前期繰越金	652,030	652,030	
合計	6,484,655	6,701,376	

## 2015年度 予算案

### 収入の部

項目	予算額	金額実績	2014年度備考
当期納入会費	5,500,000		
サポート費	1,000,000		
ワセダフォーミュラプロジェクト	550,000		
鳥人間プロジェクト	10,000		
エコランプロジェクト	-		
ロボステッ	-		
預金利息・雑収入	160,000		
計	7,220,000		
前期繰越金	6,587,319		
合計	13,807,319		

## 2014年度 決算報告

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2014年度備考
事業費	3,650,000	3,875,491	
ニュースレター発行費	2,500,000	2,460,069	40・41号作成、発送
学生支援費	550,000	669,529	サークル支援、各種手伝い
奨学金	50,000	115,000	ビジュアルシンキング各賞、オリエンテーション補助
総会・会議費	250,000	277,151	総会、理事会、新年会
行事・活動費	300,000	353,742	ホームカミングデー、単位取直、イブサロ、ゴルフ
事務局費	2,736,000	3,215,312	
人件費	2,000,000	1,998,800	
交通費	330,000	485,220	事務局体制変更
通信費	180,000	157,482	電話代、インターネット、葉書、切手
事務用品・印刷費	150,000	452,426	機友会紹介パンフ・不明者名簿等作成
慶弔費	5,000	30,078	
データベース管理費	10,000	0	
振込み手数料	60,000	82,306	(48,850)郵便局+(33,456)りそな
雑費	1,000	9,000	
その他		575,500	
ワセダフォーミュラプロジェクト振替		565,500	
鳥人間プロジェクト振替		10,000	
計	6,386,000	7,666,303	
繰越金	598,655	6,587,319	
合計	6,984,655	14,253,622	

## 2013年度 決算報告(参考)

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2013年度備考
事業費	3,650,000	3,840,288	
ニュースレター発行費	2,500,000	2,350,827	38・39号作成、発送
学生支援費	550,000	714,250	機友会サークル、各種手伝い
奨学金	50,000	144,000	ビジュアルシンキング、オリエンテーション
総会・会議費	250,000	249,365	総会、理事会、各委員会
行事・活動費	300,000	381,846	ゴルフコンペ、見学会、イブサロ
事務局費	2,736,000	2,590,036	
人件費	2,000,000	1,866,700	勤務体制短縮
交通費	330,000	386,380	
通信費	180,000	163,232	電話代、インターネット
事務用品・印刷費	150,000	65,099	機友会紹介パンフ、振込用紙
慶弔費	5,000	15,855	
データベース管理費	10,000	13,470	パソコンソフト
振込み手数料	60,000	79,300	(47,920)郵便局+(31,380)りそな
雑費	1,000	0	
計	6,386,000	6,430,324	
繰越金	98,655	271,052	
合計	6,484,655	6,701,376	

## 2015年度 予算案

### 支出の部

項目	予算	実績金額	2014年度備考
事業費	3,880,000		
ニュースレター発行費	2,500,000		42・43号作成、発送
学生支援金	700,000		機友会サークル、各種手伝い
奨学金	120,000		ビジュアルシンキング、オリエンテーション
総会・会議費	300,000		総会、理事会、各委員会
行事・活動費	360,000		ゴルフコンペ、見学会、イブサロ
事務局費	2,995,000		
人件費	2,000,000		
交通費	500,000		
通信費	160,000		電話代、インターネット、葉書、切手
事務用品・印刷費	200,000		プリンター・インク購入(50,000円見込む)
慶弔費	30,000		
データベース管理費	10,000		パソコンソフト
振込手数料	85,000		郵便振替、口座自動引き落とし
雑費	10,000		
その他	560,000		
ワセダフォーミュラプロジェクト	550,000		
鳥人間プロジェクト	10,000		
エコランプロジェクト	-		
ロボステッ	-		
計	7,535,000		
繰越金	6,272,319		
合計	13,807,319		

## 貸借対照表 2015年3月31日現在

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
新宿北郵便局	727,386	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	7,931,460		
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	88,578		
りそな銀行新宿支店	3,759,356		
みずほ銀行新宿西口支店	190,400		
東京郵民銀行	73,052		
現金	142,885	運営資金	6,587,319
合計	12,913,117	合計	12,913,117

## 貸借対照表(参考) 2014年3月31日現在

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
新宿北郵便局	1,897,565	機友会基金	6,325,798
郵便振替分	5,666,980	機友会基金	6,325,798
三菱東京UFJ銀行新宿通支店	266,374		
りそな銀行新宿支店	3,566,822		
みずほ銀行新宿西口支店	297,771		
現金	192,316	預り金	5,562,030
		入金済会費・サポート費	5,292,174
		繰越金	269,856
合計	11,887,828	合計	11,887,828

# オリーブ・佐々木洋子奨学資金設立後の経過についてのご報告

早稲田大学元職員 佐々木洋子（オリーブ）

第42号（2015年4月10日発行）のニューズレターを会員の皆様へ発送したところ、ある卒業生から、奨学金設立の文書に感銘したので、是非この奨学金に賛同し資金提供できないかと申し出がありました。また、その他にも募金課に問合せの電話が入っているようで、大変うれしく思っています。そこで今回その手続きについてお知らせします。

まず、下記に示す、早稲田大学総長室募金課に電話で「寄付申込書」を請求し、その後は大学の規定に沿って手続きをしていただきたく思います。

卒業生の皆様方から多くの賛同をいただければ、毎年、総合機械工学科、機械科学・航空学科各1名計2名という枠を計4名に増やすことや、また、約24年間という奨学金支給期間も延長することも可能になると思われ

ます。

来年春号（2016年4月1日発行）のニューズレターにはオリーブ・佐々木洋子奨学金の受給が決まった学生さんに、どんな研究をしているのか、またその時の感想などを書いてもらうことになっています。

なお、今回の奨学金を設立するための寄付により、2015年7月13日、本部キャンパスの會津八一記念博物館『明暗』において、総長より名誉賛助員という称号を贈呈されました。身に余る光栄と思うとともに、機械工学科に長く勤務できたことに感謝し、これからも早稲田色に染まって人生を生きていきます。今後ともよろしくお願いいたします。



## お申し込みの流れ

1. 本学所定の「寄付申込書」に必要事項をご記入・押印のうえ返信用封筒にてご郵送ください。また「指定先」の欄には、オリーブ・佐々木洋子奨学金とご記入下さい。
2. 本学所定の「寄付金振込依頼書（複写式）」に必要事項をご記入のうえ、最寄りの金融機関から下記の振込先銀行へお振込みください。

※本学所定の「寄付金振込依頼書（複写式）」をご利用いただき、下記の銀行の本店・各支店からお振込の場合は、手数料は無料です。

※寄付金振込依頼書（複写式）の「通信欄」にはオリーブ・佐々木洋子奨学金とご記入下さい。

〈振込先銀行〉口座名（学）早稲田大学

みずほ銀行	高田馬場支店	普通	1215058
三菱UFJ銀行	江戸川橋支店	普通	0001029
りそな銀行	早稲田支店	普通	0554909
三井住友銀行	高田馬場支店	普通	1844080

3. 寄付申込書の受取と寄付金の入金の確認が取れ次第、次の書類をご郵送いたします。①および②の書類につきましては、確定申告の際、寄付金控除の手続きに必要となります。
  - ① 「受入通知書兼税額控除に掛る証明書（写）および特定公益増進法人証明書（写）」
  - ② 本学発行の「領収書」
  - ③ 「お礼状」

寄付手続きに関するお問合せ先  
早稲田大学 総長室募金課

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

TEL 03-3202-8844 FAX 03-5286-9801 URL <http://kifu.waseda.jp/>

## 第34回機友会ゴルフコンペ開催報告

昭和50年卒 谷山 雅俊 (永田研)

機友会ゴルフコンペが、5月14日、快晴の下、川崎国際生田緑地ゴルフ場で47名の参加で開催されました。

私は、3年前に研究室の先輩、会社の先輩（いずれも優勝者）に誘われ初参加し、今回は4回目の参加でした。また、ゴルフ委員会のメンバーにも加わり、当日のコンペ前は集金作業等でバタバタし、1年先輩の49年組とスタートしました。

最近、乗用カートでのスコア入力方式となり、1組目のスタートだったので、スコアボードに名前が掲載されました。ところが、前半終了まで残り、昼休みに諸先輩から信じられない状況

に「どうなってんだ？」との驚きの激励も受けました。後半は力尽き、一旦名前が消えましたが、最後の2ホールのミラクルパーで再度浮上しました。普段、他メンバーのスコアを見る余裕のない私にとって、極めて新鮮な経験でした。

コンペ後のパーティーで優勝の二文字に驚き、歓喜、最高でした。優勝の勝因は、ペリア方式（6ホールが隠しホール）です。得意のツキで、トリブルの2ホール、ダボの2ホール、ボギーの1ホールが隠しホールに入り、28.8のHDGPを獲得し、優勝をゲットできました。



優勝者（谷山 左側）

また、ベスグロ狙いの中谷先輩、後半驚異の追い上げを見せた岡田先輩、要所を押えた武田先輩（2位）に引きずられ、私もこれまでのベストから2番目のグロス92で回ることができました。

今回のコンペのハイライトは、32年卒の山崎晴通先輩が、エージシュートを達成し、しかもベスグロ。機友会には驚異の大先輩が健在です。

機友会ゴルフは、縦の繋がりを大切に、機友会会員は誰でも参加できる懇親ゴルフです。機友会の輪を更に広げるべく、多くの皆様の参加をお願いします。



## 機友会通信

## うれしいニュースをバネとして

昭和42年卒 石 太郎

最近機友会にうれしいニュースが飛び込んだ。それは、機友会がサポートしているサークルの「ロボコンサークルROBOSTEP」がNHKロボコン競技大会で優勝したことである。機友会としては会員の皆様に、「エコランプロジェクト」、「ロボコンサークルROBOSTEP」、「WASA（早稲田宇宙航空研究会）鳥人間」、「早稲田フォーミュラプロジェクト」へサポート費支援のお願いをしている。いずれのサークルも他大学との競争をすることにより、その取組を通じて工学的なスキルを高めようと努力している。しかし、優勝するためには技術力向上の努力と支援が欠かせない厳し

さがある。そのような状況の中、優勝のニュースが飛び込んだ。サークルの学生はもちろんであるが、サポートをしている機友会としても素直にうれしい気持ちとなった。7月17日の理事会には、学生より競技経過について報告がなされた。8月には、インドネシアの世界大会に出場となっている。機友会活動が、サポート費として学生の取組みに役に立ち成果に結びついたという具体的な実感となり、久しぶりに親心を感じた時間であった。このようなニュースをバネとして、今後の活動に弾みをつけたいと理事会も盛り上がった。

浅川新会長体制がスタートして、実

効ある活動を目指して活動が活性化している。浅川会長の大学と企業両方のバランスある感覚を生かして、現役バリバリOBを含めて幅広いOB層と大学や学生を橋渡しできる機友会になろうと、現実的、具体的に活動が進められている。今回の優勝のニュースは、分かりやすい成果として理事のモチベーション向上に貢献している。この他のサークルにもサポート費が集まり、支援サークルから感謝している。今後も嬉しいニュースが飛び込んでくることを期待したい。

# ROBOSTEP 世界大会(インドネシア)遠征費寄付の御礼

機友会支援サークルであるROBOSTEPが去る6月7日に開催されたNHK学生ロボコン2015 ABUアジア・太平洋ロボコン 日本代表決定戦において優勝、日本代表としてインドネシア・ジョグジャカルタで開催される世界大会に参加するにあたり、遠征費の寄付金を機友会OB会員に募らせて頂きました。成績は巻頭の記事のとおり、予選は突破しましたが、優勝したベトナムチームに準々決勝であたって敗れ、ベストエイトということでした。

6月30日、メールアドレスを登録して頂いているOB会員3,500名の方にメールを送信させて頂き、大会までに99名の方と1企業様より¥1,458,000-の寄付を頂きました。頂いた寄付金は、遠征費(約¥2,500,000)の一部として学生に渡させて頂きました。

この度は早急なお願いにも関わらず、多くの方々から多大なるご理解・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。学生も、OBの支援には心から感謝をしております。機友会といたしまして

は、今後も多岐にわたり学生の活動を支援していきたいと考えておりますので、皆様方からも引き続き変らぬご支援とご協力をお願いし御礼とさせていただきます。

今後も、よりタイムリーな情報を提供させて頂くためにも、一人でも多くの方にメールアドレスの登録を頂ければ幸甚です。メールアドレスが未登録の方、変更になった方は機友会事務局まで連絡を頂くようお願いいたします。

機友会会長 浅川 基男

機友会サークル担当理事 石 太郎

## ロボステップ 遠征費支援協力者

氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年	氏名	卒年
山田 稔	昭和25年	朝香 賢太郎	昭和35年	荻須 吉洋	昭和40年	太田 邦博	昭和45年	寺田 吉廣	昭和53年	郡山 茂樹	平成23年
赤井 民幸	昭和27年	泉 知明	昭和35年	小沼 紘	昭和40年	佐藤 忠久	昭和46年	長谷部 邦夫	昭和53年	中野 貴啓	平成24年
川上 幸作	昭和27年	水田 昭	昭和35年	古賀 国彦	昭和40年	山本 正晴	昭和46年	定近 士郎	昭和54年	佐々木 洋子	元職員
杉島 和三郎	昭和27年	平野 良	昭和35年	佐藤 征行	昭和40年	岡林 正和	昭和47年	坪田 章	昭和54年	大貫 正雄	元職員
浅井 和宣	昭和30年	大嶋 邦夫	昭和36年	高原 昭	昭和40年	小祝 秀明	昭和47年	瀬在 昭弘	昭和56年	須永 信一	理工建築
小河原 和夫	昭和30年	太田 秀治	昭和36年	鳥海 友也	昭和40年	高柳 博	昭和47年	土屋 伸生	昭和58年	中西 剛	政経学部
服部 源二	昭和30年	太田 一	昭和36年	浅川 基男	昭和41年	平井 裕司	昭和47年	森谷 義博	昭和58年	福原 久	理工工経
矢杉 正明	昭和30年	根岸 董昌	昭和36年	岡部 公一	昭和41年	神野 秀基	昭和48年	有田 道生	昭和61年	影島 一吉	政経学部
佐野 修二郎	昭和31年	白相 六郎	昭和36年	真下 芳隆	昭和41年	田中 信男	昭和48年	舛井 伸一	昭和61年	原 信治	商学部
丸田 毅	昭和31年	鈴木 幸一	昭和37年	矢吹 捷一	昭和41年	杉 英彦	昭和49年	奥村 盛	昭和63年	(株)木村鋳造所 代表取締役 木村 博彦	
柳澤 源内	昭和31年	星 利樹	昭和37年	伊藤 忠夫	昭和42年	中谷 光廣	昭和49年	栗田 健	平成2年		
網野 功	昭和32年	市岡 篤	昭和38年	田島 克	昭和42年	篠原 昭司	昭和50年	松下 宏	平成3年		
進藤 哲朗	昭和32年	栗林 寧	昭和38年	鬼澤 秀夫	昭和43年	松本 賢悟	昭和51年	中尾 公一	平成5年		
山崎 晴通	昭和32年	山田 裕信	昭和38年	近島 一夫	昭和43年	藤井 康裕	昭和51年	金島 義治	平成11年		
笹 明	昭和33年	木村 博彦	昭和39年	久保 直基	昭和44年	森 豊	昭和51年	宮本 悟	平成11年		
中沢 和之	昭和33年	堀内 辰男	昭和39年	高野 行雄	昭和44年	井古田 忠雄	昭和52年	津田 行子	平成16年		
堀井 英範	昭和33年	板谷 昭	昭和40年	浜野 雅夫	昭和44年	五月女 昌弘	昭和52年	三田村 哲幸	平成17年		
柳瀬 公伯	昭和33年	大沢 茂樹	昭和40年	石浜 和義	昭和45年	湯川 晃宏	昭和52年	金石 大佑	平成23年		

## 会員 訃報

2015年3月1日以降 下記の会員の方々について訃報の連絡がありました。ここに、謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和12年	旧機械	西江 明	2013.3.28
昭和16年	専機	石原 竹次郎	2014.3.17
昭和22年	旧機械	田村 政雄	2010.11
昭和24年	専運	出山 隆	2015.1.20
昭和24年	旧機械	古稻 豊	2015.7.23
昭和25年	旧機械	皆川 久	2013.1
昭和26年	旧機械	浅井 英一	2015.1
昭和27年	二機械	安藤 實	2012.1.7
昭和28年	一機械	大瀧 正敏	2011.8.30
昭和28年	一機械	坪田 久男	2009.11

卒年	学歴	氏名	逝去年月日
昭和29年	一機械	長森 喜三郎	2014.12.11
昭和30年	二機械	岡野谷 正衛	2015.3
昭和30年	二機械	粕谷 照男	2015.5
昭和30年	二機械	齊藤 重利	2015.5.5
昭和35年	二機械	林 良次	2015.7.11
昭和40年	一機械	及川(相沢) 洋	2012.7
昭和42年	機械	伊藤 忠夫	2015.8.29
昭和46年	機械	大澤 宏和	2011.2.4
昭和46年	機械	細矢 広	2011.11.2
昭和49年	機械	山本 光夫	2014.10.12
昭和57年	機械	中島 晃	2007.11.26

# 機友会事務局 伊藤忠夫氏の急逝を悼む

伊藤忠夫さん（昭和42年林研卒）は、平成20年から機友会事務局に約7年間勤務されご尽力いただきましたが、平成27年8月29日未明に、自宅で突然お亡くなりになりました。

逝去された前日の8月28日（金）は伊藤さんの出勤日で、当日私も理事会が近いと出勤して一日一緒に仕事をしました。伊藤さんは、奥様と行かれたヨーロッパ旅行から数日前に帰ったばかりということでしたが、いつもと変わらぬ様子で仕事をし、午後4時ごろ元気に家に帰られました。ところが、翌朝伊藤さんの奥様から主人が亡く

なると電話がはいり、びっくりしました。

伊藤さんは幅広い人脈をお持ちで、温厚でいつも笑顔を絶やさず、誰にも好かれる性格で、堅実な仕事スタイルで機友会活動に多大な貢献をしていただきました。事務局では会計を担当し、最近新たにいられた大貫さんとともにサークル支援の仕事や、メールを使った会員への連絡等機友会業務に貢献いただきました。私は、新しい行事を開催する時など何か問題が有るたびに、何事にも造詣の深いベテランの伊藤さんによく相談をし、適切なアド

バイスを頂いておりました。相談相手を突然失い心細い限りです。

これからも伊藤さんの機友会への想いを考えながら仕事をしていこうと思っています。本当に、いろいろお世話になりました。ありがとうございます。ご冥福をお祈り致します。 合掌

事務局 荻須吉洋（昭和40年卒）



## 2015年度 サポート費

2015年2月1日から8月31日までの間に下記の方々から総額420,900円のサポートを頂きました。

厚く御礼申し上げます。今後とも皆様方の更なるご支援をお願い致します。（敬称略）

氏名	卒年
小沢 秀夫	昭和18年
石川 吉通	昭和26年
井田 淳	昭和26年
増田 次郎	昭和26年
赤井 民幸	昭和27年
新井 保文	昭和27年
太田 公陽	昭和27年
小田垣 徳幸	昭和28年
鈴木 孝	昭和30年
小高 光雄	昭和31年
増田 昌士	昭和31年
江口 昌典	昭和32年
佐伯 俊造	昭和32年
濱中 日出男	昭和32年

氏名	卒年
福田 尚	昭和32年
若林 峯一郎	昭和32年
秋山 三郎	昭和33年
加藤 清二郎	昭和33年
近藤 芳夫	昭和33年
佐藤 智士	昭和33年
前田 正彦	昭和33年
高山 信横	昭和34年
山口 富士夫	昭和34年
朝香 賢太郎	昭和35年
大村 隆士	昭和35年
河野 章一	昭和35年
高尾 尚補	昭和35年
平野 良	昭和35年

氏名	卒年
古谷 哲男	昭和35年
野村 滋郎	昭和35年
森分 俊彦	昭和37年
阿川 昌彦	昭和39年
郷野 雅道	昭和40年
旭 清隆	昭和41年
加藤 吉泰	昭和41年
西 俊徳	昭和41年
矢吹 捷一	昭和41年
甲斐 正勝	昭和42年
近島 一夫	昭和43年
中村 昌一	昭和44年
浜野 雅夫	昭和44年
森村 恒夫	昭和44年

氏名	卒年
太田 邦博	昭和45年
服部 晃	昭和45年
佐藤 博俊	昭和46年
長尾 進一郎	昭和48年
藤田 貞雄	昭和48年
前田 良平	昭和54年
野地 彦彦	昭和57年
高橋 秀知	昭和59年
高橋 啓	昭和61年
納富 信	平成5年
青柳 泰一郎	平成8年
長谷川 晶一	平成18年
三十五会	昭和35年

### 各サークル支援

エコラン	
太田 公陽	昭和27年
細井 健司	昭和27年
石岡 貞雄	昭和32年
矢吹 捷一	昭和41年
石崎 保男	昭和43年
近島 一夫	昭和43年
浜野 雅夫	昭和44年
井古田 忠雄	昭和50年
神原 隆之	昭和50年
山田 洋輔	昭和50年
遠藤 明彦	昭和59年
奥村 盛	昭和63年
山本 喜久	平成03年

ロボステップ	
井田 淳	昭和26年
石岡 貞雄	昭和32年
矢吹 捷一	昭和41年
近島 一夫	昭和43年
浜野 雅夫	昭和44年
服部 晃	昭和45年
井古田 忠雄	昭和50年
神原 隆之	昭和50年
山田 洋輔	昭和50年
飯田 康隆	昭和55年
青柳 泰一郎	平成08年

鳥人間	
太田 公陽	昭和27年
石岡 貞雄	昭和32年
矢吹 捷一	昭和41年
近島 一夫	昭和43年
浜野 雅夫	昭和44年
井古田 忠雄	昭和50年
神原 隆之	昭和50年
奥村 盛	昭和63年
山本 喜久	平成03年
青柳 泰一郎	平成08年

フォーミュラ	
村上 有志知	昭和23年
増田 次郎	昭和26年
石岡 貞雄	昭和32年
衛藤 一郎	昭和36年
工藤 健一	昭和38年
矢吹 捷一	昭和41年
石 太郎	昭和42年
近島 一夫	昭和43年
永島 寛	昭和44年
浜野 雅夫	昭和44年
山本 正晴	昭和46年
井古田 忠雄	昭和50年
神原 隆之	昭和50年
堀 浩治	昭和50年
五月女 昌弘	昭和52年
高田 智治	平成04年

## 事務局からのお知らせ

### 住所・E-mail 等の変更のあった時にはご連絡ください

機友会事務局では、会員約25,000名の方々のデータを管理しておりますが、約4割の方々の情報が把握されていません。また、事務局から発送する郵便物が受取人不明のため返送されることがたいへん多くなっています。

たいへんお手数ですが、住所、勤務先、E-mail 等の変更が生じた時は事務局までメールまたは、お電話で知らせくださるようお願いいたします。

### 機友会ホームページをご覧ください

事務局からのお知らせとして、総会・見学会・イブニングサロン、その他催事等のご案内、また発行済のニュースレターを掲載しています。是非ご覧ください。

<http://www.kiyukai.mech.waseda.ac.jp>

### 第33回 機友会ゴルフ大会開催のお知らせ

日時：平成27年11月4日（水）

集合7:45 スタート8:15

会場：川崎国際生田緑地ゴルフ場

費用：20,000円（プレー費16,000円 参加費4,000円）

申込先：機友会事務局

TEL/FAX：03-3205-9727

E-mail：waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

準会員として奥様やご家族の参加も可能です。また、正会員でも親睦会員として、競技とは関係なく体力とご相談の上マイペースでの参加も可能です。

（親睦会員の参加費は2,000円です。）

### 第34回早大モビリティシンポジウム開催

本年度の第34回早大モビリティシンポジウムを下記のように開催します。

詳細が決まりましたらHP等でお知らせします。

多数ご来場くださるようお願い申し上げます。

記

日時：平成27年11月14日（土）10:00～17:00

場所：早稲田大学理工学部57号館2階202号室

懇親会：シンポジウム終了後開催

### 編集後記

機友会活動がますます充実してきたことでWMEの内容も変化してきました。従来創造理工学部で行われていた「創造理工リテラシー講義」に実社会で活躍する機友会会員の経験談の講義が加わりました。次に学生のサークル活動の結果をトップ面に掲載しました。

また課題も記述する事で会員のサークル活動支援の必要性も判り易くしました。GKN（技術経験ネットワークの略、従来の知的ネットワークの発展）は理事及び会員からの経験談を収集し、逐一会員を対象にして講話をしていく取り組みにも使用していくようにしました。WMEがますます的確な情報発信源となるように編集委員全員で頑張ります。

（編集担当理事 眞下 進）

### 機友会事務局

月、火、木、金の10:00～16:00

井古田、荻須、佐々木、大貫

〒169-8555

東京都新宿区大久保3-4-1

早稲田大学理工学部内55号館S棟

2階

電話 03-3203-4141（大代表）

内線 73-5252

TEL/FAX

03-3205-9727（直通）

E-mail

waseda-kiyukai@ktb.biglobe.ne.jp

### 会費納入についてのお願い

#### 会費納入について

機友会の活動は皆様からの会費を財源に運営されています。会費納入について、是非皆様のご理解、ご協力をいただきたくよろしくお願いいたします。

会費は1年間分 3,000円 4年間分 12,000円

会費納入については郵便局または下記銀行からお振込みください。

#### ※銀行からの場合

三菱東京UFJ銀行 新宿通支店 普通口座 No.2460079

お振込みの際は同姓同名の方がいますので卒年・氏名・フリガナを必ずご記入ください。

#### ※郵便局からの場合

ニュースレターに同封されている郵便局の振込用紙は全員の方に同封していますが、昭和34年以前卒業の方、当年度まで会費の納入の方、及び銀行口座振替の方にはサポート費と印字した振込用紙を同封しています。どうかご支援を賜りたくよろしくお願いいたします。

#### ※当年度から会費を払う場合

今まで会費納入されていない方、過去何年か納入されていない方が遡って納入される方がありますが、会費を遡っていただく規則がありません。

気を使っていたら大変なのですが、当年からの会費として納入をお願いいたします。

#### 会費納入の自動引落し窓口を開設しています

会費納入に振込みの手間がかからない銀行口座自動引落しの窓口を設けています。

会費は1年間2,750円と少しだけお安くなっています。

ご利用される方は申込み用紙をお送りしますので事務局までご連絡ください。

銀行口座自動引落しは毎年4月18日（休日の場合は翌日）となります。たとえば、5月に申込みをいただいても、翌年の4月からとなります。



工事中の理工キャンパス

WME ニュースレター 第43号

発行元 早稲田機友会編集事務局

佐々木、荻須、石、浜野、眞下

印刷 神谷印刷株式会社

〒171-0033 東京都豊島区高田1-6-24